

2020年10月理事会議事録

日 時：2020年10月24日（土）14：00～17：00

場 所：オンライン会議・日本考古学協会事務所

出席：辻 秀人・佐古和枝・佐藤宏之・足立佳代・植田 真・臼杵 勲・大塚昌彦・岡林孝作・亀田直美・河村好光・小菅将夫・惟村忠志・滝沢 誠・田尻義了・谷口 榮・寺崎秀一郎・時枝 務・中嶋郁夫・中山誠二・萩野谷 悟・馬淵和雄・溝口 孝司・宮里 修・高麗 正、監事：橋本裕行、（事務局：林 純子）

欠 席：都築恵美子

進 行：萩野谷 悟

議 長：辻 秀人

萩野谷理事から、本日の出席者は25名（うち理事24名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

萩野谷理事から、兵庫県の斎藤和夫会員が2020年2月29日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第596号 2021年度総会に関するワーキンググループの構成員と設置要綱等について

田尻理事から、9月理事会議案第593号で承認された第87回（2021年度）総会のオンライン開催を検討するためのワーキンググループ（以下、WG）について、設置要綱案が提示されるとともに、WG構成員として、企画担当理事である田尻理事及び滝沢理事、第87回総会実行委員会委員長である専修大学の高久健二委員長、及びIT関係に精通している野口 淳会員・中村耕作会員・石井淳平会員の6名としたいとの提案があり、原案通り承認された。

続けて、来年度総会まで時間が限られていることから、早速WGを開催し総会時に行っている各イベントごとに開催方法の検討を行った結果、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないため、定時総会は書面あるいはハイブリッド（対面・オンライン併用）、公開講演会はハイブリッド、研究発表のうち口頭発表・セッションはオンライン、ポスターセッション（高校生含む）はPDF等によるオンライン開催とし、その他についても感染症対策のため密になる状況は避けて現地での対面開催は実施しない方向で検討を進めたいとの説明があり、開催方法の基本方針について承認された。

議案第597号 協会賞選考委員会委員承認について

佐藤副会長から、2020～2021年の日本考古学協会賞選考委員について会員から再任3名・新任1名の合計4名の委員候補者の推薦があり、併せて今後の選考日程が提示され、原案通り承認された。

議案第598号 日本学術会議会員任命をめぐる問題に関する声明とHP公開について

社会長から、日本学術会議が新会員として推薦した候補者105名のうち6名が内閣総理大臣により任命されなかった問題について、「日本学術会議会員任命をめぐる問題に関する声明」の発出提案があり、案文が提示された。審議の結果、一部修正の上、協会のホームページ上での掲載により発表することで承認された。

議案第599号 Web会議に関わるZoomアカウント数の初期契約について

高麗常務理事から、理事会や総務会・委員会等の協会で実施しているWeb会議の開催にあたり、これまで理事や委員のZoomアカウントで実施してきたが、各種会議に対応するために協会としてZoomの有料アカウントを2本契約したいとの提案があり、原案通り承認された。

議案第600号 正会員新入会員の資格審査に関わる倫理綱領の一部改正について

中嶋理事から、今年度入会の正会員入会資格審査において、業績以外について異議申し立てがあったことを受け、入会前の不適切な行為に対応する根拠として、「一般社団法人日本考古学協会倫理綱領」の文言を一部改正したいとの提案があった。審議の結果、倫理綱領に抵触していた場合の手続きを含めた検討が必要であるとの意見があり、倫理綱領制定の経緯からも慎重な検討が求められ、継続審議となった。

議案第601号 理事選挙制度検討小委員会の設置及び構成委員について

大塚理事から、前回の理事選挙はコロナ禍の感染拡大渦中における開票となったため、協会事務所で開催できず理事選挙管理委員の解任及び群馬県在住会員で再組織し開票事務を行ったとの経緯説明があった。このことを受けて、緊急時の開票についての規則の整備や、併せて1票の格差を是正するための地区ブロックの見直し、投票人数や選挙方法についても検討する必要があるとの説明があり、検討を行うため理事選挙制度検討小委員会の設置が提案された。小委員会の構成としては、前回の理事選挙管理委員会委員長である大工原 豊会員、元監事の唐澤至朗会員・吉田哲夫会員、理事選挙管理委員経験者の芹澤清八会員、元事務局長の長瀬 衛会員・水村孝行会員の6名を予定しているとの提示があり、審議の結果、理事選挙制度検討小委員会の設置及び構成委員について承認された。

議案第602号 2020年度特別会計（科学研究費補助金）の支出予算の再編成について

溝口理事から、新型コロナウイルス感染拡大により、英文機関誌Japanese Journal of Archaeology（以下、JJA）の広報活動予定だった海外学会の中止や、総会時セッション・ワークショップ中止に伴い海外発表者の来日を取り止めになったことを受けて、JJA刊行事業の計画変更が必要になったとの説明があった。ついては、特別会計である科学研究費補助金の使用用途の変更に伴う勘定科目の変更及び次年度への繰越を行いたく、2020年度特別会計（科学研究費補助金）の予算の再編成の提案があり、原案通り承認された。

議案第603号 退会会員の承認について

中嶋理事から、神奈川県のみ*会員、長野県のみ*会員から2020年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

報告第791号 各委員会等の事業報告（その2）

1 平成28年熊本地震対策特別委員会報告

田尻理事から、①9月10日（木）に益城町及び熊本県教育委員会とそれぞれ面談し、現在の状況や今後の計画について伺った。②委員会活動の最終報告書の作成を進めているとの報告があり、了承された。

2 広報委員会報告

足立理事から、10月6日（木）に委員会をオンラインで開催し、『会報』No.200及びNo.201の刊行日程・内容について確認を行った。また、ホームページの活性化を検討し、リニューアルについて意見交換を行うとともに、10月からリレーコラム「コロナ禍の考古学」を新たに始めたとの報告があり、了承された。

3 埋蔵文化財保護対策委員会報告

足立理事から、9月19日（土）に幹事会をオンラインで開催し、①長崎市長崎県庁跡地の確認調査の現地訪問を受けて協議した結果、保存活用を求める要望書を提出することとした。なお、その後案文の検討を行い、10月5日付で要望書を提出した。②会津若松市「攬勝亭」の開発について、意見書を提出する方向で調整中である。③福島県いわき市平城跡におけるガイダンス施設の建設計画について、遺跡の保存活用に適していない計画で進められる可能性があることから、適切な保存活用を求める要望書を提出する予定であるとの報告があり、了承された。

4 英文機関誌編集委員会報告

溝口理事から、10月10日（土）に委員会をオンラインで開催し、①『JJA』Vol. 8, No. 1の編集進捗状況を確認した。②『JJA』Vol. 8, No. 2及びVol. 9, No. 1の掲載予定内容及び刊行編集日程について協議した。③世界的な新型コロナウイルス感染拡大を受けて、当初予定していた事業が実施できないことから、事業計画及び科学研究費補助金の執行計画の見直しを行った。④科学研究費補助金中間審査書類の記載内容について、意見交換を行ったとの報告があり、了承された。

5 研究環境検討委員会報告

亀田理事から、10月3日（土）に委員会をオンラインで開催し、①第87回（2021年度）総会でのセッション及びポスターセッション実施の方向性を確認し、内容を協議した。②委員会での今後の検討対象事項について意見交換を行ったとの報告があり、了承された。

6 災害対応委員会報告

宮里理事から、10月9日（金）に委員会をオンラインで開催し、①令和2年7月豪雨について、被害の大きかった熊本県の被災状況及び現状について報告があり、情報共有を行った。②第87回（2021年度）総会セッションについて、内容や発表者について協議した。③災害時の博物館・収蔵庫の被害について把握するため、収蔵庫の立地とハザードマップ

との関係についても情報収集する方向性の意見交換を行ったとの報告があり、了承された。

7 陵墓報告

滝沢理事から、①立会調査見学が9月29日（火）に御廟野古墳（天智天皇山科陵）で実施され、9学協会10名が参加し、当会からは滝沢理事が参加した。②コロナ禍で実施できない宮内庁との陵墓懇談について調整の結果、実施できる見通しとなったとの報告があり、了承された。

報告第792号 2020年度前期職務執行状況の定例報告

辻会長並びに佐藤副会長・佐古副会長から、定款第24条第3項の定めにより、今年度前半期の会長・副会長としての各種会議の参加等、各々の職務執行状況について報告があった。

報告第793号 事業等に関わる共催名義使用の了承について

高麗常務理事から、北海道アイヌ協会から国際先住民族の日記念事業シンポジウム「近代日本における先住民族アイヌの位置づけ—アイヌ研究史の概観」について、共催（名義）依頼があり、これまでの経緯から名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

続けて佐藤副会長から、本事業はアイヌラウンドテーブル講演会の一環だが、新型コロナウイルス感染拡大により申請の日程では開催されておらず、現状で未開催であるとの補足説明があった。

報告第794号 2019年度科学研究費補助金額の確定（通知）の受理

高麗常務理事から、昨年度の科学研究費補助金について決算額で確定した旨の通知があったことが報告され、了承された。

その他

1 2021年度予算策定の基本方針と実施依頼について

辻会長から、各委員会及び事業担当理事に、コロナ禍の影響で事業実施形態を考慮の上、期日までの来年度予算案の提出が求められた。

以 上